

儒醫評林

完



✕

j 22

490.28
王

No. 2338

12 J. 22



富士川文庫
244

題儒醫評林首

凡百技藝。有能有不能。而

不可不知焉。和氏之相玉。

所以能知之也。宋人之襲

石。所以不能知之也。其玉

石難辨。况於技藝乎。今也
東方昇平。以技藝行于世
者不爲不多矣。而學之者
不知其師能不能者。猶宋
人然。可痛哉。平安元生一

日。携乃儒醫評林來。請余弁
之余。撫卷而歎曰。烏乎。篤
哉。生之好也。蓋儒者道藝云
也。醫者仁術也。所以爲藝
之最也。茲評出而諸名家

不蔽其光得如荆玉豈不
 愉快乎世之學者由是擇
 之何違之有

浪華烏有之撰



江戸儒醫評判記

經學家之部

大極上上吉 宇佐美惠助 名惠字子迪 号瀟水

此書當時律家への老儒か今へのなり
 ていさか近比先師祖傳の板行ふせぬ著述
 乃今頃い再校すてい珍の候あつをれ述行
 の君子てりります

極上上吉

松崎才藏

名惟時字君脩

以五あひの先生の役学ハ亡師太宰少もか
たませぬ文章ハ亡師より然りと申由以

大上上吉

後藤弥兵衛

名世鉤

以五 役義ク多ク一ハ学ハ文章も以達之
てハ在リます

上上吉

稻垣茂左衛門

名長章字
穉明号白崑

上上吉

大塩与右衛門

名良字子
題号鰐鰓

上上吉

宮田守右衛門

名明字子
亮号金峰

以五 此三人才太宰の門人て以事ハ
我ク功者フル宮田トハ産語の布を以人ハ
以五 さやうフル時ハハ事ハ以事ハ
近依 涉事てハ以事ハ

上上吉

井上源藏

名公祺字
考甫号東溪

ワルロ 是ハ赤坂ノ町人ナリ 以五 サヤク家系ニ以テ此
ぬり惜みわらうと云ふ事是七太宰門人との立物

上上吉 木林彦右衛門 名鐵字大 年号東郭

ワルロ すきと名とすぬそ 以五 イエノ先生ハ易
ニ以テ名ラハなると云ふ事

上上吉 佐藤蘭齋 名國字子 野

多城祖 得状ノ鼻ハカクハ 以五 以テ辨カク
あり用ぬよハなると云ふ事

でいなりぬす ワルロ もつて人取を能くいし
いふ

上上吉 澁井平左衛門 名孝徳 号太室

ワルロ 朝鮮人の筆談ノ名と聞ク事也詩他
やりは 以五 詩ハ 以五 林家カ格調ニ
さくもいれりぬす極学ハ随分ナリ
ます

上上吉 浅岡喜藏 名之實 号芳所

上上吉

植木善藏

名金字子蘭
号筑峰

此五山二人とも静齋の山仕にわく格別ニよる
修し山名名ありけり上

上上吉

甲三郎右衛門

名應清字子
纓号江南

此五久しうすうと投壺の制乃はあ
此祭ゆて山名ありぬ

上上吉

古屋重次郎

公款

此五まうさるも山名ありぬ
別して控つて用ひがよ山名あります

上上吉

清水嘉右衛門

名嘉英
字子突

此五徑義ハけつ亡師抛門よりありぬ
彦らぬ以情しるふ商家一ヤ

上々

太宰弥右衛門

名定保

此五学向ハせぬとや親父の女物もどうか
ける此五近比沙法もありますはは

極上上吉

岡井郡大夫

名孝先

引五 近直浮判り此にわゆる古文辞学が
宋字を以ていふと老先生で此にわゆる
林家の稀物

詩文家之部

大極上上吉

六内忠大夫

名承裕字子
綽号熊耳

引五 文章家で南郭熊耳といひて先生を
引五 誰つくとも心よりまね今その親玉
引五 さういふ日本の子鱗

大上上吉

鶉殿左膳

名孟一字士
寧

引五 詩文ハ赤羽の社中てハ第一て此に
引五 家業ていふとぬが跡を引五 文集
引五 五クモ

上上吉

南宮彌六郎

名岳字喬卿
号大湫

既云文章たりけるい經義の委しくい
す

上上吉

細井甚三郎

名徳民字世
馨号平洲

ワルロ 如来先生とてど髪りゆる引きるにをぬき
詩文といひ唐音といひ今までの立物
集りおののしりり人々信仰いしりす
義心ありくおるる詩經古傳がもす

上上吉

井上文平

名純御号
金碓

既云詩文もすのをきど強義りけり
くおるるす **下谷組** 醫學館の学政大のしり判

上上吉

葛陂山人

姓高名峻字
維嶽

ワルロ ちやぬきくぐ石取り知まぬ **既云** 山人も
原共がけありて人うなりませぬ博覧記膳ハ尚
時つく人のなりませぬ本草も功者でぬ
系却でハ人々用ひます文集りおりしり

上上吉

安達文仲

名脩文仲其字
号清河

其の他餘リる慢ナキミル以五道比茅場下辺
て評判よりみたる文集も追付出ぬす

上上吉

千葉茂右衛門 名玄之

以五唐詩選掌故詩学小成等の書初字又
調法存あてみたり以五後評

上上吉

三浦左兵衛 名衛興字淳
夫号航山

以五能ク不考とよる評判も然る以五加以五道比
キトある以五周南社中へのふるあり

上上吉

伊東金藏 名龜年
号藍田

以五先せハ金谷社中への才子と承ります
著述も能く又くます

上上吉

岡島忠藏 名順字忠
甫

以五援之先せの後得あつて以五筆も又くます
色も著述ります

上上吉

戸崎五郎大夫 名哲字子明
号淡園

此元 詩文が功著て世をうまき 詩文の著述
板行するをす

上上吉 入江與右衛門 名貞字子
實号北海

引キ六木の先生ハ子学向詩文といふ
能くしりまゐる也吉よせぬ
此元 南原乃由
孝子何とあつて何と好ぶよ此をり
孝子先
信輝之取待も成す也文集をとり
おしりし

上上吉 鈴木嘉藏 名嘉嘉章字
煥卿号檀州

此元 此著述も色し此をせいで出板し
才子也、追付ホ名くおす

上上吉 中山清右衛門 名延中字子
和号高陽

此元 画カキ志やみへ
此元 イエく学考で此を
ります 詩文ホよく此をり
キハ書画もきつて原物

上上吉 横谷玄圃 名友信字文
卿

此元 盲人よりハきつて詩他
の功著追付先
師兼亭記又評判が
あやふ

上上書

下リ

釋闡中

名淨復号
芝庵

口口地名や職名をもつて、殊家まうく、てす
けるそ、て文章、未熟、や、
以、や、た、た、宇土新の風を、
密、を、た、た、追付、の、地、も、
判、れ、
名實順

上上書

玩世道人

名實順

口口、の、現、依、く、は、を、ま、た、
判、れ、
色、く、後、も、
初、系、
を、
散、る

上上書

上上書

大内良助

名衡字孟玉
熊耳義子

上上書

赤松豊太

名豊泰字
有年大庵子

上上書

服部仲山

南郭義孫

功上上書

荻生總右衛門

名道濟字
太寧号金谷

元

学問の、
の、
の、
の、
の、

巻軸又後一冊

巻軸

眞上上吉

瀧彌八

名長愷字弥八号鶴臺

此卷以言名とけりて今終く文をまじりて
集り出ぬせぬ也とて老成の文一巻の
反譯

書家之部

功上上吉

三井孫兵衛

名親和字孺卿号龍湖

引上巻はよきとて向へてうみせ極みせぬ
尤も此巻より多すが廣沢社中での老先生
其上角より角近人の知れぬりたるのい先生
みれば巻取のちがひはなかりませぬと好む家
色と譯判も此巻をまじりて功の字てあらう
やせ

極上上吉

伊藤善藏

名益道字子行号華岡

兄口控つ方でもよき更なゆる
でいなりませぬまきつうの
見するの二進共ぐれなり
まよ下引キさうしん何もの
して大字と草書がよの書家
好む家画も一家とらんぬす
ぞや

上上吉口

澤田文治

名麟字文龍
号東江

既立 頤齊流を体くまそく古法帖とよく
引キ 熱海の碑や利休の碑ハ中
られます

虞世南そのまじ
女なる一ハ骨肉うをい

上上吉

松山源藏

名敬和字伯
義号天姥

以れ あれも古法帖家ては
より多カダつくます

上上吉

中川長四郎

名天壽字
大年号醉晋

兄口 石栲のヤ張はう
とほろのハ唐でもか
ぬり寧うそれやへ

論及どの先生も困りく好る家出画才
傍臭うよよぬけました

上上吉 屋代馬左衛門 名師道号 龍岡

ワロ 近出板行おの布段の法出する人う鳥
石とよよ似せませす 大坂でい大分伴判
よみせりませす

上上吉 關源藏 名其寧字 子永鳳岡子

上上吉 平林莊五郎 名惇徳字子 孝清日子

別々ぬ支人オ水家風とよよ似せれませす
別々ぬ関人オ水出様よけりませす

上上吉 竹岡主人 姓藤名信

既五 浅草の親善者、南郭の詩をよみて絵
るよとせれてうい名うませす大一家とよませす

上上吉 崑陵山人

ワルロ長崎流の刻印家此元イ四ノ中子流
も甚遠志此元イ四ノ中子流

上上書 柘植忠兵衛 字季梁

此元頭齊流での茅下此元イ四ノ中子流
判らぬ此元イ四ノ中子流

上上書 河保壽

此元近比評判此元イ四ノ中子流
流での之物此元イ四ノ中子流

卷軸上上吉 細井九阜 名知文字
天錫

此元先生ハ座えの此元イ四ノ中子流
ハと此元イ四ノ中子流

大工 醫者之部

大極上吉 松井材庵 小や下

凡口此元イ四ノ中子流
卷紙此元イ四ノ中子流

功といひとてかゞとて近世ありぬ其もくわあまげの
あゝ療治で學方事す 引キてもしも皆のんを
いふとてあまきつて其でたるとさるふ今そち
親をく

大上吉

池原雲伯

芝志んがり

引キ何病れども事さぬとさるるあぐ引世のま
このちやう医者をとるせ極みせぬ 引キたれて衆
なすて今このいふはるされまじ當時さるる
さるる近世引キ強まるといふれは外に極み付持さ

上上吉

原雲澤

神田金次丁

引キ 医者方儒學で名うまいるんでしけ人乃
あつぬるうはるい 引キ二るう方さるでいざりませ
大病とすわぬれませすま上きついで出せ
てさるります

上上吉

三木昌甫

西がハ丁

引キ け人がまゝ人といふよりたトトや 引キある
そどい上よいでいざりますすそのかより小やす

合ハ成されませぬ

上上吉

福光瑞筑

日本を二三め

既五 治すへくす昔くく用いませぬけりや

以功為く

上上吉

茨木長宣

津田と山丁

引キ 人ぐあんといつてもけり更念とけりやい

既五 以出精とげあつて能く人が知て用い

ます

上上吉

竹條崎正徹

たま丁

日本徳祖 朴庵先生以尺立の以花子あくとるやい

小児ハまっついで巧共で以なります 既五 花ハまっついで

をやりますと市目見とるされませぬ以子揃く

上上吉

守養耕

やと物丁

上上吉

徳田玄秀

あくとか

既五 格別以名ハ以きく糸と子厚ハ以藤原様で

此をりす

上上吉

瀬尾長圭

石川丁

上上吉

加藤宗元

本三郎

ワル 右方くもつてめつて殺す講釈
をり用いて並ぶよ 既 びびりけ 駿が
又くよよびざりますす 既 上 既 久しく
くね 既 病をよ 既 かせとされす 既 あら
たれ

上上吉

柴田玄意

志

上上吉

工藤周庵

つき

既 出精をされます 既 さま 既 なる 既 け
るい 既 ます

上上吉

松本尚齋

石丁

ワル 昔ハ口ときひれど 既 下 既 なる
既 なる 既 なる 既 なる 既 なる

されすす十八の対系より下へれてくくえれハ
まづいれ出世

上上士 入江廣丹 なる木下

上上士 鮭延周庵 湯一ま切通し

既元何事りたるは秘元奥保き以療治て
患ざります

上上士 津由源助 下谷

既元小児ハまづいれ功者て此よります 下谷延
さしづいれあしづがかきもけ人の後で三途川
くく引戻さす

上上士 半井探玄 ぬくし能

ワロ名ハよいが病ハ変るぬ 既元 値分変り
ますれどちと山くくりて此よります

上上士 久保西碩 三回下

上上士 町谷元悦 三回下

汎々 小児ハ功考てぬざります別りて虫が
上よとヤます

上上

原東元

かやどー

上上

伊東文伯

あぐー

極^{巻軸}上上吉

梶原平兵衛

いのー

ワロ 近江の湖と蝦夷せめいさうきや
かつこうとヤ字向とヤ日く門前市とる

ます一疥英雄てぬをります **引き**英雄て
扱す汁でるい瘡作ハ勿論本草うよあまります

極^{巻軸}上上吉

原芸庵

いのー

ワロ ますらふ程我すくとよ **引き**人のえの付ぬ
糸ぐ虫ひるがほも若きや **あ**たぬてぬをり
ます傷害とてえ六皆持てますり不思議
再あります名人

元輪内記評

京都之部嗣出

大坂

明和壬辰正月吉日

平安鳥曾八百藏梓

OHSAKI

大坂鳥曾八百藏梓

元翰內記評

京都之部嗣出

大坂

明和全辰正月吉日

平安 鳥辺五三藏梓

〇

Kitasato Memorial Medical Library